

令和5年度 第2回北海道立釧路芸術館運営協議会議事録

日 時 令和6年2月8日(木) 午後2時00分～午後3時30分  
場 所 北海道立釧路芸術館 アートホール

○出席委員 11名

○館出席者 7名

○釧路芸術館共同事業体運営委員会  
運営委員 2名

【議 事】(1) 令和5年度事業報告

- ア 展覧会事業
- イ 芸術・教育普及事業
- ウ 作品収集状況

(2) 令和6年度事業計画

- ア 展覧会概要及びスケジュール
- イ 芸術・教育普及事業

(3) その他

1. 開 会

館長より、令和5年度第2回北海道立釧路芸術館運営協議会を開催する旨の挨拶。

2. 挨拶(運営委員長代理)

釧路芸術館は、昨年開館25周年を迎えて様々な取り組みを実施しました。展覧会観覧者は昨年11月度で前年度から比べ1万3千人増と2倍近く伸び、開館以来の総観覧者数も60万人を達成しました。観覧者数をさらに増やせるよう、道外の観光客や若い方たちに来館していただける取り組みを行って参りたいと思います。本日の協議会でのご意見を来年度の運営に反映させて頂きたく、今年度の事業報告と来年度の事業計画について、忌憚なきご意見を頂ければ幸いです。よろしくお願いたします。

3. 協議会成立等について

館長が令和5年度第2回北海道立釧路芸術館運営協議会の開催にあたり、午後4時前後に閉会したいこと、また、委員数15名中過半数の11名の出席となり、運営協議会規則第7条2項により本協議会が成立することを宣言した。

会長より、議事について忌憚のないご意見をいただきたい旨の挨拶があり、議事(1)に移った。

#### 4. 議 事

##### (1) 令和5年度 事業報告

館長が展覧会事業の概要について報告。有料展の中で最も観覧者数が多かったのは「ディズニー キャッツ&ドッグス」展で、有料展で5千人を超えたのは、令和元年度以来4年振りであることも説明した。

次に、学芸主幹が展覧会の個別状況と関連事業等について報告。「ヨーロッパ近代絵画の巨匠たち」展については、久しぶりのヨーロッパ絵画展ということで非常に好評であったが、ちょうど夏休み期間に重なり、学校の団体観覧が少なかったことは残念な点であったと言及。話題の展覧会の時に学校と連携できるようにしていきたいとした。また、「ディズニー キャッツ&ドッグス」展については、大人から子どもまで楽しめる展覧会であったこと、作品を募集してロビーに展示した「みんなの動物絵画展」や「犬、猫のかわいいポンポンマスコットをつくろう」「ランチ&トーク」といった様々な関連事業の開催を報告した。

次いで、館長が芸術・教育普及事業について報告。パフォーミング・シアターやミュージアムコンサート、地域連携事業等のほか、今年度から実施したワンポイント・トークについても説明。また、アートホールとフリーアートルームの貸館利用者数については、前年度から大幅に増加したことに言及した。

さらに、作品収集状況や新しい取り組みについて説明し、令和5年度事業報告を終えた。

会長 令和5年度の展覧会事業や教育普及事業、作品収集状況、それから、新しい取り組みについて報告いただきました。委員の皆様、ご質問やご意見をお願い致します。

委員 「ディズニー キャッツ&ドッグス展」は、ポップで馴染みやすく、観覧者数も伸びるのではと思っていました。先程ご報告いただいた中で、今後の課題ということで、「本展は展示構成の質は高かったが、出品作品のほとんどがデータ出力による複製品であった。今後、美術品の展示としてはこのようなものをどう位置付けていくのか、他館の状況を踏まえて考えていく必要がある。」とのことですが、このデータ出力による複製品というのは3Dプリンターで作成したものでしょうか。

学芸主幹 プリンターで出力したものもあれば、ご覧になられたかもしれませんが、立体作品もあり、複製品ではあるものの、オリジナルという考え方で展示しております

す。そもそもアニメーション自体がオリジナルと言えるのかは判断しづらい部分があるものですから、アニメーションであったりキャラクターであったりと様々な展覧会が増えていますので、複製かオリジナルかで判断するのも大事ですが、それにとらわれ過ぎずアートとして面白いのかを基準にして、優れたものについてはこれからも積極的に紹介していきたいと思っております。

委員 展示室のスタッフの方が色々フレンドリーに教えてくださり、私自身も大変楽しむことができました。複製品というのはイミテーションではないということでしょうか。

学芸主幹 そうです。アメリカのディズニーからお借りしているものですので、こちらで複製しているというものではありません。

委員 ちなみにアニメーションやキャラクター関連の展覧会に対する他館の方向性というのは、ざっくりとおわかりでしょうか。

学芸主幹 そういったものをこれからどのように扱っていくかというのは、人気があれば何でも展示すればいいのかということそうではないわけですし、慎重に見極めながら考えていかなければなりませんので、どこの館も迷いながら進んでいる状況だと思います。

委員 25周年の年に、色々工夫をしながら PR されていて、観覧者数が見込みより1万人以上も多かったということですので、大変努力なさったと感じます。

令和5年度に関して3点お聞きします。まず1つ目は、資料1ページの展覧会事業計画および実施状況の表にある、「ハコビ・コレクションのお宝」、「田園の夢」、「かもめのももちゃんを見る Cats&Dogs」について、それぞれ目標が500人に対して、実績は1500人であったり、5000人台であったりと大きな数字が出ていますが、目標500人の根拠を教えてください。

それから、3ページの「追悼 彫刻家・中江紀洋」展の成果と今後の課題の3番目に「作家遺族から借用して展示した作品については、その後寄贈を受け、コレクションの充実にもつながった。」とありますが、本展は令和5年度の展覧会で、5年度分の寄贈の手続きはまだ進んでいないのではと思いますので、この件はもしかして令和4年度の寄贈分ではないでしょうか。

3つ目は、釧路芸術館は「映像芸術」、特に写真で個性を出そうと力を入れてきていますけれども、今年度「奈良原一高展」と「珠玉のコレクション展」を開催しました。コレクションを展示する場合であったとしても、やはり新たなことを発表したり新たなことを探ったりしてお客さんに伝えていくことが望ましいと思います。

企画側として、コンセプト上で工夫したことを簡単に教えてください。

館長           ご質問の1つ目についてですが、実は令和5年度については、実行委員会形式の「ディズニー キャッツ&ドッグス展」の目標人数が8千8百人と非常に高い設定となったことから、無料展に関してはもっと入る予測はありつつも、年度の展覧会全体でバランスを取るために、目標人数の調整を行ったものです。

学芸主幹       2つ目のご質問、「追悼 彫刻家・中江紀洋」展の成果と今後の課題の「作家遺族から借用して展示した作品については、その後寄贈を受け」の部分ですが、実際に寄贈を受けたのは令和4年度に開催した展覧会の後のことですので、今年度の寄贈ではなく昨年度の寄贈になります。誤解を招く表現で申し訳ありませんでした。

それから、3つ目は「奈良原一高展」と「珠玉のコレクション展」に関して、今回どういったアプローチなり新たな発見があったかというご質問です。

「奈良原一高展」からお話ししますと、それまで写真というのは記録するためのものであるという考え方があった中で、作家が表現する手段である芸術としての写真という考え方を拓いていった日本の写真家の先駆けとされている人物です。

当館の写真作品のコレクションは、どちらかと言えば現代の写真家のものが多くて、芸術的表現を志向した作品が大変多いわけですが、その先駆けとなった人がどういったことを考えながら、写真を作り上げていったのかという、当館の写真作品を理解する上できっかけとなる写真家の作品を整理してご紹介できたのは、企画した学芸員にとってはもとより、今後皆さんが当館の写真コレクションをご覧になる際の理解の一助となればという思いで企画しました。

また、「珠玉のコレクション展」では、これまで人気の高かったり、注目を集めたりした作品を改めて整理して紹介したものであります。本展は、ただ人気のある作品を展示するだけではなく、他館からの借用依頼が一番多かったもの、最も大きい作品、最も小さい作品といった身近なアプローチをしています。単純にこの作家のこの作品はこういった意味合いがあるかだけではなくて、作品の今まで注目されてこなかった魅力をできるだけ多くの人たちに親しんでもらえるよう、学芸員が知恵を絞りながら掘り起こしたことで、小学生ですとか今まで展覧会にいらっしゃらなかった方々に喜ばれておりますし、これから作品を紹介する上でどういうわかりやすいアプローチをしていけばよいかという考えるきっかけになったと思います。

委員           目標人数の設定がなかなか難しいのはよくわかりますが、一方であまりにも目標と結果がかけ離れ過ぎているので疑問に思ったところです。無料スペースの展覧会というのは、ある程度有料スペースからの流れで入ってきますので、その辺

りも含めた人数の計画を何らかの形で考えていく必要性を感じました。

(2) 令和6年度 事業計画

学芸主幹が「写真家 岩合光昭の日本ねこ歩き」や「鴨居玲 生と死を見つめて」といった展覧会事業について説明。

最後に館長が、「令和6年度の新たな取り組み」について、説明を行った。

1. 誘客の促進

積極的な PR の展開、多彩な関連イベントの実施など

2. 夜間開館の拡充

展覧会毎に夜間開館日を設定

3. 優待割引料金の導入

100円割引料金の設定、SNS フォロー割引など

4. より魅力ある教育普及事業の展開

プレミアムトーク（作家や関係者による講演）

学芸員による美術講座

5. 音声ガイドアプリの活用

ポケット学芸員

委員 展覧会の団体観覧に関しては、小・中学校の校長会でも PR していますが、現状では学校の外での活動というのはなかなか難しいです。ただ、小学生に限ってお話すると、2年生の生活科の学習で市内の色々な所を訪ねることがありまして、3年生は漁業関係の学習をする時間があります。それから、特別支援学級では和商市場に出かける学習があります。そういった機会に合わせて、芸術館に立ち寄らせていただくことが可能ではとまっているところです。

また、学年を問わなければ、芸術館の周辺地域一帯を遠足の目的地にしてもらうアイデアもあると考えています。いずれにしても、改めて校長会で PR したいと思います。

館長 貴重なご意見ありがとうございます。参考にさせていただきます。より多くの学校などにご利用いただけるように努力していきたいと思えます。

委員 令和6年度の展覧会計画を拝見していましたが、下沢敏也さんに焦点を当てた理由をお聞かせください。

学芸主幹 当館のコレクションの柱の一つが「自然と芸術」ですので、自然を素材にした作家の一人として、関心を持っていたところです。今年度「自然へのまなざし」という当館や道立近代美術館のコレクションを活用した展覧会を開催しま

すので、それに合わせて今まさに同時代で土を素材に、自然と向き合いながら創作活動を展開している道内でも注目を浴びている作家の作品を是非紹介したいと考え、企画したところです。

委員 資料の紹介文に「北海道を代表する陶芸家のひとり」とあります。キャリアもありますし、本州でも色々展覧会をされて、北海道の陶芸の牽引力になっている作家さんなのですが、道立の美術館や芸術館が現存する作家について、「北海道を代表する」と表現するのは結構重みのあることだと思います。そこまで書くことの芸術館の責任と言いましょうか、その評価が色々な人の評価に堪えうるものなのか、代表するとまで位置付けてしまって本当に良いのかということは、慎重になられた方が良いと思います。

会長 作品の質とは関係のない話ですが、展覧会を計画する際は、来館者側の視点を知るために意見聴取をされた方が、集客の向上につながるのではと感じましたので、是非委員の皆様には、こういう展覧会なら子どもが来やすいですとか、近所の方が来やすいといったご意見を伺いたいと思います。

委員 私は介護施設を運営しておりますが、以前芸術館で開催された「我が町のお宝展」や「我が家の名品展」は利用者に受けが良かったです。また、若い人へは今後も SNS で PR していくことが大切ですね。先程のご説明では、「アートシネマ館」を午前の上映に変更するとのことでしたが、アートホールの稼働率はどのくらいでしょうか。

館長 パーセントまではすぐにお答えできませんが、例年3月1日に行う貸館の一斉受付では、土日の日程はすぐに埋まってしまいます。「アートシネマ館」の上映を午前の上に絞ることで、貸館需要の高い土曜日の午後の時間帯を開放できることとなりますので、貸館利用の方には歓迎していただけるのではと考えています。

委員 平日の日中帯で中高年の方の需要を掘り起こして、カラオケやリズム体操での利用を促してはどうでしょうか。

館長 空いている日程につきましては、随時ホームページで公開していますので、その旨をお伝えしていきたいと思います。

会長 人口動態も含めた形で、観覧者目標数の設定をしていく必要があるのではと思います。それから年齢層もですし、展覧会毎に見ると観覧者数に有意な男女差がありますので、企画するにおいてこういったお客さんがいて、何が望まれ

ているのか、どれくらいの人口がいるのかといったことを含めて考えていく必要があると思いました。

学校の利用もそうですね、子どもの数はどんどん減っていますから、今後どう  
いう企画をして、どういった層に発信をしていくかという住み分けが必要では  
と思った次第です。

会長

全体を通して他にご意見はありますか。よろしいですか。  
それでは、議事の「(3) その他」の令和6年度の新たな取り組みについて  
は、先程の事業計画でまとめてお話いただきましたので、次回協議会の日程  
等に関して事務局からお願いします。

館長より次回の運営協議会は令和6年8月上旬に予定していることと、議事録は会長  
に内容の確認を取った上で、委員名を伏せた形で当館ホームページに掲載することの  
説明がされた。

運営委員長代理の柴田より、貴重なご意見を検討させて頂き今後の運営に生かしたい  
との挨拶。

全ての議事が終了したため、令和5年度第2回北海道立釧路芸術館運営協議会は閉会  
となった。